

第118回市町村職員を対象とするセミナー

岩手県釜石市における在宅医療・介護連携の推進に向けた医師会と市区町村との協力について②

# 在宅医療連携拠点チームかまいしの取組み

連携の土壌づくりとタネまき、その成果と波及効果

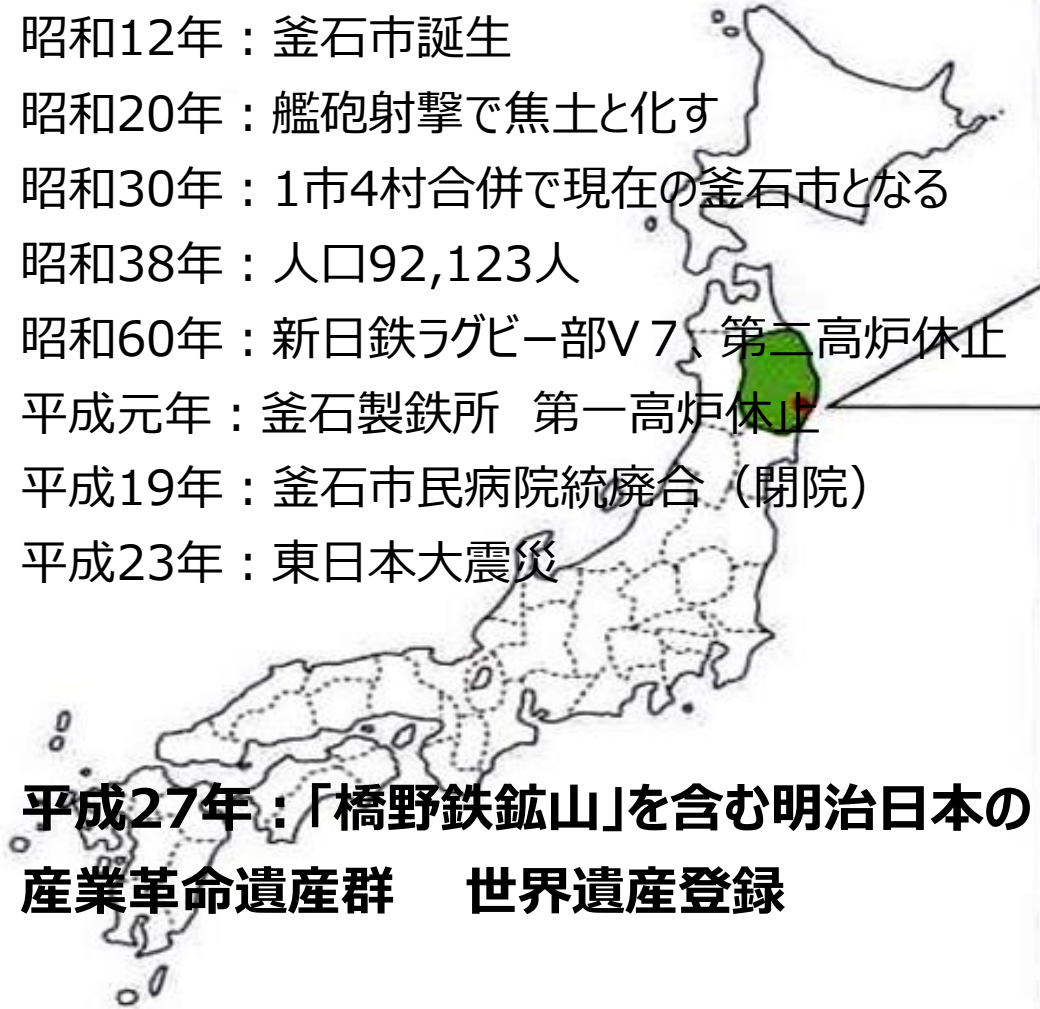


平成28年3月18日  
釜石市保健福祉部健康推進課  
地域医療連携推進室

在宅医療連携拠点チームかまいし  
連携コーディネーター 小田島史恵

# 釜石市

- 三陸大津波（M29、S8）、  
チリ地震津波（S35）、十勝沖地震津波（S43）
- 昭和12年：釜石市誕生
- 昭和20年：艦砲射撃で焦土と化す
- 昭和30年：1市4村合併で現在の釜石市となる
- 昭和38年：人口92,123人
- 昭和60年：新日鉄ラグビー部V7、第二高炉休止
- 平成元年：釜石製鉄所 第一高炉休止
- 平成19年：釜石市民病院統廃合（閉院）
- 平成23年：東日本大震災
- 平成27年：「橋野鉄鉱山」を含む明治日本の  
産業革命遺産群 世界遺産登録



三陸復興国立公園のほぼ  
中央に位置する、鉄と魚の  
まち



2019年ラグビー  
ワールドカップ開催地!!

## 岩手県の二次医療圏



### ◆釜石市

面積 441.32Km<sup>2</sup>  
人口 36,096人  
高齢化率 35.8%

### ◆大槌町

面積 200.59Km<sup>2</sup>  
人口 12,455人  
高齢化率 33.8%

(H27.6月末現在)

## 釜石医療圏

釜石市・大槌町  
人口 48,551人  
高齢化率 35.3%

# 医療資源・介護資源（釜石保健医療圏）

|             |    |                |
|-------------|----|----------------|
| ➤病院         | 6  | ※再建中の病院1も含む    |
| ➤医科診療所      | 19 | ※内、在宅療養支援診療所 3 |
| ➤歯科診療所      | 19 |                |
| ➤保険調剤薬局     | 20 |                |
| ➤地域包括支援センター | 2  | （釜石市1、大槌町1）    |
| ➤居宅介護支援事業所  | 17 |                |
| ➤訪問介護事業所    | 12 |                |
| ➤訪問看護ステーション | 3  |                |
| ➤通所介護事業所    | 16 |                |
| ➤特別養護老人ホーム  | 5  |                |
| ➤グループホーム    | 10 |                |

平成27年度実施  
在宅医療・介護実態調査結果より

- 在宅看取り実施診療所 11
- 在宅医療実施診療所 9
- 訪問指導実施歯科診療所 12
- 訪問指導実施保険薬局 11

平成27年11月現在

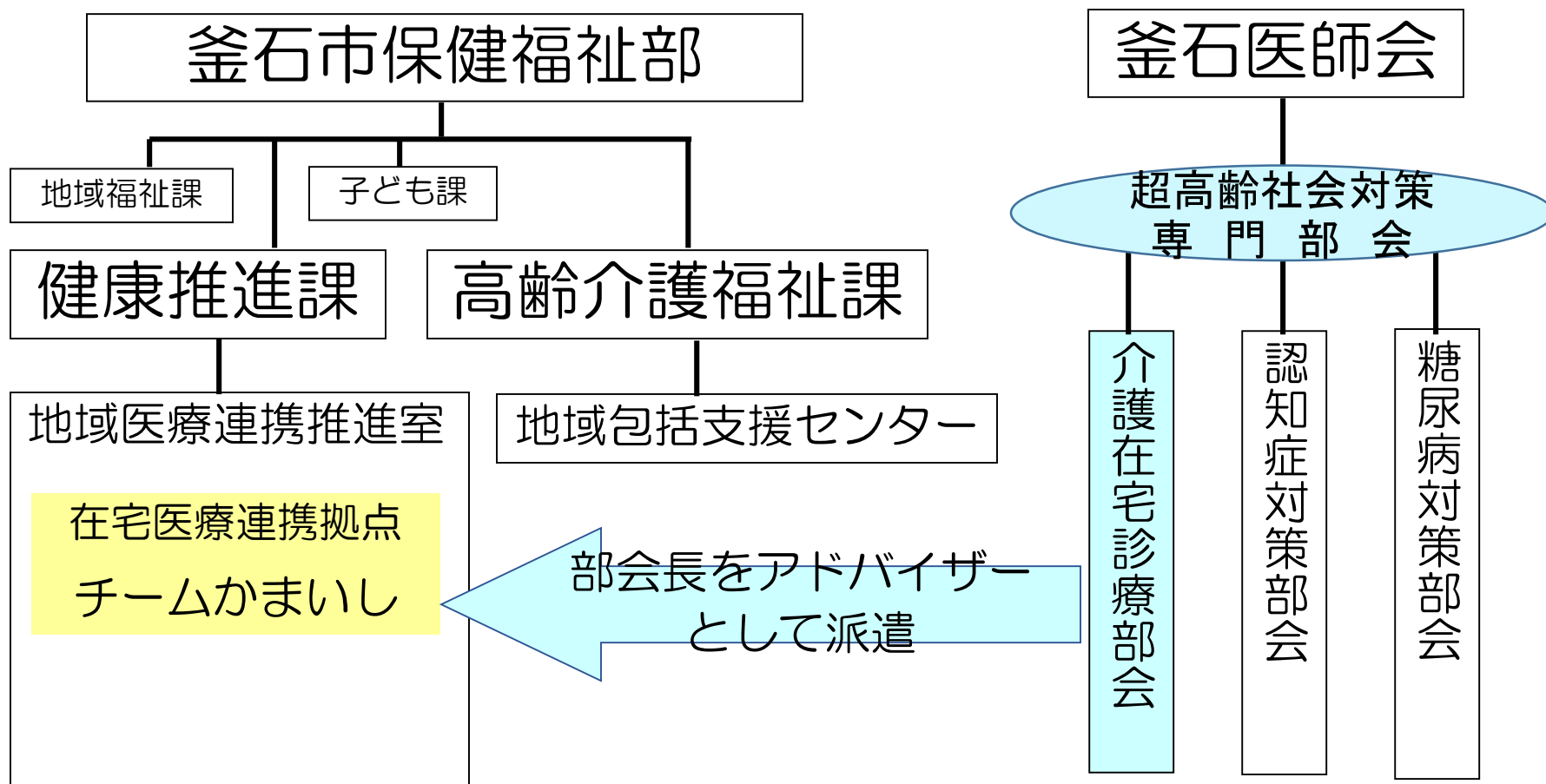
# 在宅医療連携拠点チームかまいし

- ◆平成24年7月1日 **釜石医師会との連携により**  
厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の  
採択を契機に  
「在宅医療連携拠点チームかまいし」を設置

- 地域医療・介護連携の専門部署として、市保健福祉部内地域医療連携部局に設置
- 医師会派遣のアドバイザー(医師)配置
- 連携コーディネーター(事務職)配置



# チームかまいし関連組織図



# 財 源

平成24年度

厚生労働省委託モデル事業

在宅医療連携拠点事業

平成25年度～平成27年度

岩手県補助事業（地域医療再生基金）

在宅医療介護連携促進事業

在宅医療介護連携コーディネート事業

平成28年度～

地域支援事業(介護保険)

在宅医療・介護連携推進事業

# 求められるタスク

## H24年度在宅医療連携拠点事業

- 地域の医療機関との連携
- 関係者が一元的に対応
- 研修の実施
- 24時間365日対応体制の構築
- 在宅・介護施設との連携
- 効率的な情報共有
- 地域住民への啓発

## 平成30年度からは全ての市町村が実施する在宅医療・介護連携推進事業

### チームかまいしの設置目的

～患者が希望すれば在宅医療を選択できるまちづくり～

## 在宅医療の普及啓発 と

## 在宅医療・介護に関する 多職種連携の推進

の把握  
課題の抽出と対応

介護の提供体制

共有支援  
する相談支援

する関係市町村

# 事業取組みのための第一歩《準備編》

- 担当部署の決定

例：①介護保険担当課が担当する

②医療関係者と顔の見える関係が構築されている

部署が担当する。 釜石市の場合：健康推進課地域医療連携推進室

③地域包括ケア等を所管する部署を新設する

- 郡市医師会との連携

釜石市の場合：釜石医師会からアドバイザーの派遣を受ける

- 多職種の顔の見える会議開催

在宅医療連携拠点事業に係る世話人会の開催

※「在宅医療連携拠点事業推進協議会」の前身

# 釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会

## ◆平成27年度構成員

- 釜石医師会 5
- 各病院代表者 5
- 釜石歯科医師会 1
- 釜石薬剤師会 1
- 釜石広域介護支援専門員協議会 1
- 釜石リハビリテーション療法士会 1
- 釜石市保健福祉部 1

### 《オブザーバー》

岩手県保健福祉部長寿社会課  
大槌町民生部  
釜石保健所  
釜石市包括ケア推進本部  
釜石市地域包括支援センター  
高齢介護福祉課  
地域づくり推進課

# チームかまいし的事業取組みのための第一歩《実践編》

## 連携の土壌づくりとタネまき

### ➤ア)医療・介護資源の把握

- ・医療・介護資源のリスト&マップ作成
- ・チームかまいしHPで公開
- ・google mapの活用（フリー）

※一番の目的は、連携拠点が把握すること。

公開は二の次。顔の見える関係づくりの下準備

※経費は殆どかけてないのが自慢！

更新が頻繁なので印刷製本しても無駄になるので・・・



### ➤イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と解決策の検討

最も重要なタスク。これにより事業の方向性は左右される

### ➤専門職を対象とした意識啓発(研修、説明会等)

地域医療連携推進フォーラム

歯科医師会会員対象研修

薬剤師会理事会での説明

地域包括支援センター職員対象研修

連携コーディネーター育成研修 等の実施

ウ) 切れ目のない在宅医療介護の  
提供体制の構築推進  
カ) 医療介護関係者の研修

# 在宅医療・介護関係多職種を対象とした意識啓発

平成25年度地域医療連携推進フォーラム

講演①：「治す医療から治し支える医療への転換」

国立長寿医療研究センター総長 大島伸一氏

講演②：「在宅医療連携拠点事業以降の在宅医療・介護の展望」

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻哲夫氏

シンポジウム：「釜石の復興を支える包括ケアの構築に向けて」

座長：県立釜石病院院長 遠藤秀彦氏



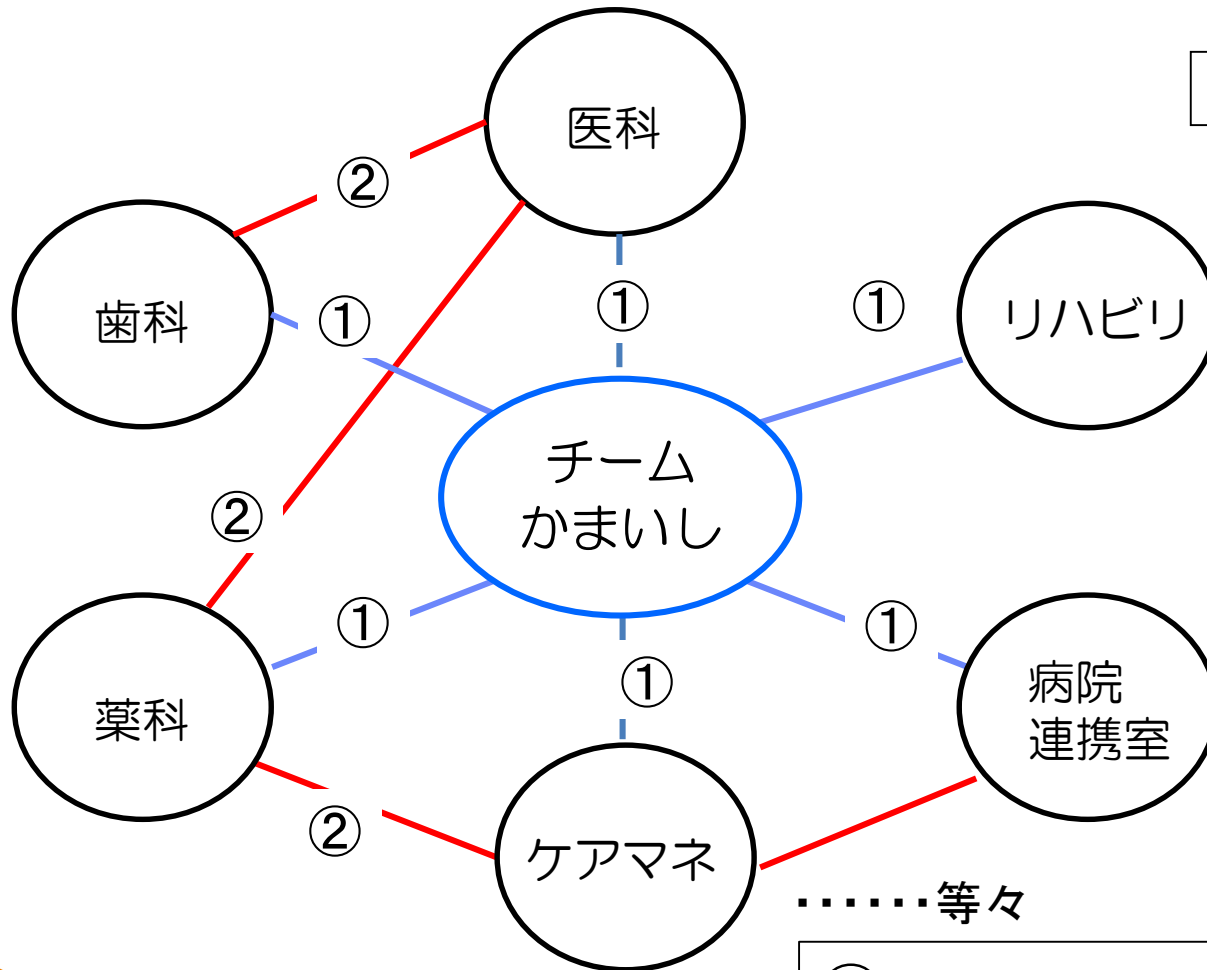
# チームかまいし事業実施概要

|                            |                                                                                |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| ア) 地域の医療・介護の資源の把握          | 医療介護資源基本情報(資源リスト)及びマップの作成と周知<br>在宅医療・介護連携実態調査                                  |
| イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討  | 職能団体毎の打ち合わせ等（一次連携）<br>在宅医療・介護連携推進協議会（二次連携）<br><b>階層別連携コーディネート</b>              |
| ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進 | 二階層別連携推進協議会等<br><b>階層別連携コーディネート</b>                                            |
| エ) 医療・介護関係者の情報共有支援         | チームかまいしホームページ・ブログ開設、サイボウズlive運用、<br>地域医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」構築・運用支援             |
| オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援       | 多職種向け連携に関する相談窓口設置<br>一般向け在宅医療に関する相談窓口設置                                        |
| カ) 医療・介護関係者の研修             | 地域医療・介護連携推進委員会等、職能団体主催研修開催への支援、<br>地域医療・介護連携推進協議会（二次連携）<br><b>階層別連携コーディネート</b> |
| キ) 地域住民への普及啓発              | 在宅医療普及啓発パンフ作成・活用、市広報誌の活用、市民公開講座、生涯学習まちづくり出前講座                                  |
| ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携   | 釜石・大槌地域医療連携推進協議会（保健所所管）                                                        |

# チームかまいしの連携コーディネート手法

## 階層別連携コーディネート

イメージ図



- ①一次連携
- ②二次連携
- ③三次連携

③地域全体のコンセンサス形成の場合

# チームかまいしの連携コーディネート手法

## ◆ **一次連携**（連携拠点と一職種による連携） ※連携の基盤

課題の抽出と解決策の検討・実践

職能団体ごとに課題を抽出・分類・フィードバックすることで  
職種内の気づきと課題の共有を促進

⇒団体自らが解決策を検討 例:在宅医療への温度差解消のためのセミナー

⇒連携拠点が職種内課題解決のための取組みを支援 ⇒連携強化

## ◆ **二次連携**（連携拠点が仲介する複数職種の連携）

一次連携のニーズをマッチングすることで連携構築を支援

例:医科歯科同行訪問研修、多職種合同研修会等

⇒反省会での課題の抽出と解決策の検討・更なる実践へ

## ◆ **三次連携** 地域全体のコンセンサス形成の場

# 《三次連携》 多職種が一同に会する機会

- ◆ 釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会
- ◆ 釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会



釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会の様子60～90人が参加

多職種連携の第一歩  
顔の見える関係  
づくり  
連携に関する  
コンセンサス  
形成の場

**【課題】**  
課題解決のための  
現場レベルの連携  
プロジェクトが進まない



# 各職種における課題の層構造 ～何故、現場レベルの連携が進まないのか～

一次連携で抽出された課題

職種Aの課題



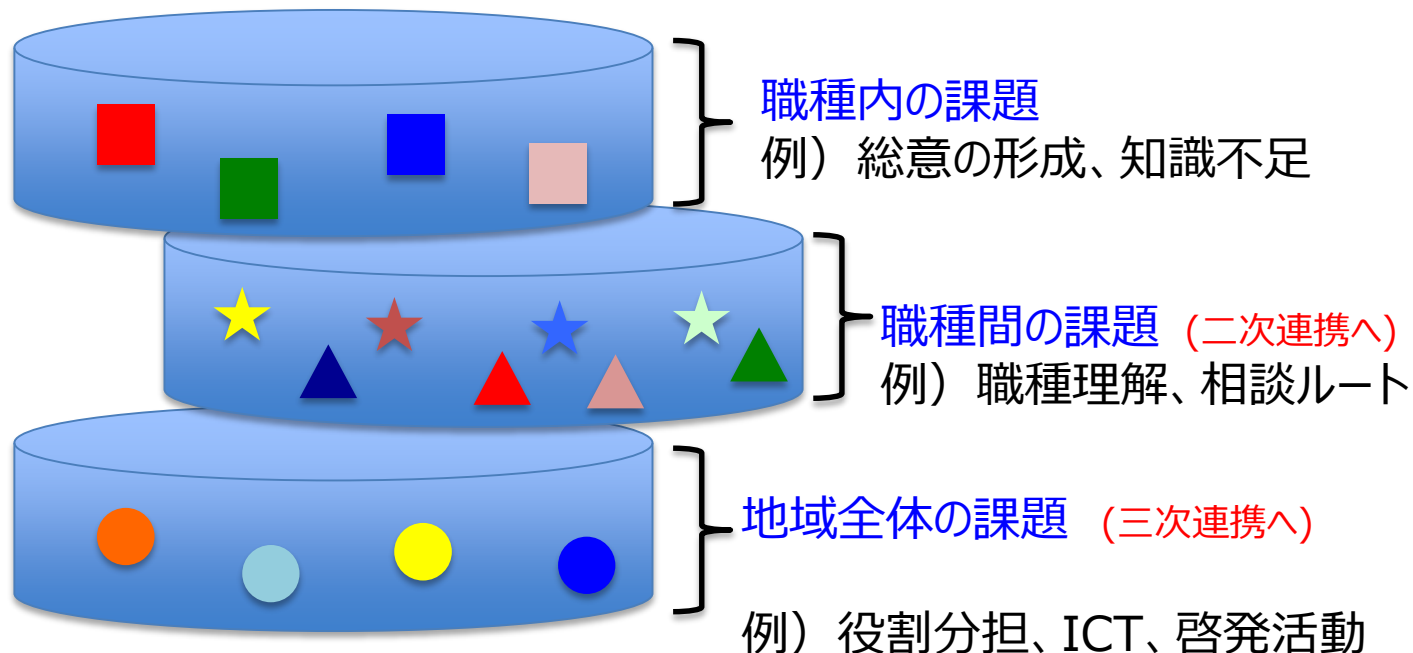
職種Bの課題



職種Cの課題



職種Dの課題



- 層の異なる課題を同一の場で解決することは困難
- 課題の分類と課題内容に応じた場・手法の選択

# 《一次連携》職能団体との打ち合わせ会

～連携の土壌づくり&タネまき～

歯科医師会と



栄養士会と



病院連携室と



ケアマネ協議会と



リハ士会と



訪看ステーションと



「釜石リハ士会」の設立を支援

# 一次連携のポイント

～連携の土壌づくり&タネまき～

## ➤ 会議ではない

- 雑談も交えつつ、ざくばらんに職種特有の事情が話せるように何度でも
- これまで諦めていた思い(課題)を掘り起こす

## ➤ 職能団体という単位にこだわりあり

- 連携に熱心な事業者・個人単位では、連携が広がらない。公平でない。
- 出席者は情報（課題・解決策案）を団体にフィードバック
- 一職種に絞ることで、他職種の目を憚らず発言しやすい

# 一次連携の効果

～連携の土壌づくり&タネまき～

## ➤ 職能団体自らが課題に気が付く

→課題の多くは自らの職種、団体、職場にあることが判明

## ➤ 必然的に職能団体自らが解決策を検討・実施へ

→研修会開催など、チームかまいしが支援

## ➤ 連携拠点にとっては、連携のキーパーソン発掘の場

複数職種間の課題・ニーズは  
チームかまいしのコーディネートにより《二次連携》へ

# 職能団体主催研修への支援・協力

## 【平成25年度】

- ・チームかまいし医科歯科連携推進セミナー
- ・釜石リハ士会主催多職種対象研修会
- ・釜石薬剤師会主催多職種研修会
- ・釜石三師会主催学術講演会



## 【平成26年度】※チームかまいし支援事業として実施

- ・釜石医師会学術講演会
- ・釜石広域介護支援専門員連絡協議会主催研修会
- ・釜石薬剤師会主催多職種研修会



# チームかまいしによる連携支援事業

## 薬剤師会主催多職種連携研修会

日 時：平成27年3月5日（木）18時45分

参加者：87名（薬剤師24、他職種63）

講演＆ケーススタディ

「在宅患者さんを通しての多職種コミュニケーション  
～服薬支援を通しての多職種コミュニケーション～」

講師：井手口直子氏

（帝京平成大学薬学部教授）

### ◆ニーズのマッチング◆

薬科「薬剤師の職能を他職種に理解  
してもらいたい」

拠点「多職種間のコミュニケーション  
のスキルアップを図りたい」



# チームかまいしによる連携支援事業



## ◆釜石医師会学術講演会

日 時:平成27年6月29日(月)18時30分

参加者:136名

講演:「優しさを伝えるケア技術  
～ユマニチュード～」

講師:イブ・ジネスト氏(ジネストマレスコッティ研究所所長)

通訳兼講師:本田美和子氏

(国立病院機構東京医療センター総合内科医長)

## ◆釜石三師会学術講演会

日 時:平成27年8月7日(金)18時30分

参加者:87名

講演:「在宅医師から見た地域包括ケアシステムの現状～多職種の専門性を活用した在宅医療の実践～」

講師:狭間研至氏 (ファルメディコ(株)代表取締役社長、一般社団法人日本在宅薬学会理事長)



一次連携で抽出された  
職種をまたぐ課題のほとんど全てが

お互いの理解不足



相互理解を支援するために  
2次連携をコーディネート

# 《二次連携》 連携拠点が仲介する複数職種による連携 ～課題内容に応じた様々な連携手法～

## 【実績】

平成25～27年度医科歯科同行訪問研修 計9回

平成25～27年度医科薬科同行訪問研修 計11回

平成25年度ケアマネジャー＆薬剤師合同研修会

平成26年度滋賀県高島市視察対応

// 病院連携室＆ケアマネジャー意見交換会

// 在宅医療先進地域情報フェスタ2014

平成27年度日本在宅薬学会でのポスター発表

// 浦添市医師会等視察対応

// 歯科医師＆栄養士意見交換会



同行訪問



視察対応



グループワーク



意見交換会



共同発表

# 一次連携で抽出された課題リスト

## ケアマネ

第1回ケアマネ連携に関する打ち合わせ会議 (1次連携)

退院調整以外の業務（医療ソー

## 病院

第1回連携室連携（県産）に関する打ち合わせ会議 (1次連携)

2014/8/8

| No | 職種   | 発言者 | 備 考             |
|----|------|-----|-----------------|
| 1  | ケアマネ | 齋藤  | がん相談 院内         |
| 2  | 医師   | 寺田  | ケアマネ            |
| 3  | 医師   | 寺田  | てほし ケアマネ        |
| 4  | ケアマネ | 岩崎  | 戻るん 院内          |
| 5  | ケアマネ | 岩崎  | 院は分 ケアマネ        |
| 6  | ケアマネ | 岩崎  | ケアマネ            |
| 7  | 医師   | 寺田  | ケアマネ            |
| 8  | 医師   | 寺田  | イスはす ケアマネ       |
| 9  | 医師   | 寺田  | 希望はす ケアマネ       |
| 10 | 医師   | 寺田  |                 |
| 11 | 医師   | 寺田  | ケアマネ            |
| 12 | ケアマネ | 澤田  | と家族に いる。ケア ケアマネ |
| 13 | 医師   | 寺田  | まり効 ケアマネ        |
| 14 | ケアマネ | 澤田  | ケアマネ            |
| 15 | ケアマネ | 澤田  | 護師等)            |
| 16 | 医師   | 寺田  | る。 慢性期病院        |
| 17 | 医師   | 寺田  | ッドが空 慢性期病院      |
| 18 | 医師   | 寺田  | とりあえ 診療所        |
| 19 | 医師   | 寺田  | 診療所、歯科          |
| 20 | ケアマネ | 松田  | 薬局も 薬科          |
| 21 | ケアマネ | 松田  | ケアマネ            |
| 22 | 医師   | 寺田  | 組織の強化 院内        |

一次連携のいいところは他の  
職種の目を気にせずに思い  
切り言いたいことが言えること